

## 今日の中海における沿岸藻場の水平的・垂直的な分布構造

宮本 康 初田亜希子\*

\*：現西部総合事務所生活環境局

LAGUNA（汽水域研究） Vol.14,9-16(2007)

キーワード：被覆度、種数、分布下限、塩分、透明度

2004-2006 年に行った野外調査の結果に基づき、沿岸藻場の水平・垂直的な分布構造の現況把握を行った。分布構造の指標として出現種数（種多様性の指標）・被覆度（現存量の指標）・分布下限深度（垂直分布の指標）に注目し、海からの距離との関係性を評価した結果、海から遠ざかるほど出現種数が減少し、分布下限が浅くなることが判明した。出現種数

・分布下限深度のいずれもが透明度に応じて変化すること、透明度が海からの距離に応じて変化することから、観察された出現種数・分布下限の空間変異は、透明度を介した変化であることが示唆された。一方、被覆度にはそのような傾向は認められなかったことから、海藻の被覆度は透明度のような光環境以外の影響が重要であることが示唆された。